

【港南区】平成 31 年第 1 回区づくり推進横浜市議員会議  
議事録

開催日時	平成 31 年 2 月 6 日（水） 午後 2 時 30 分～午後 4 時 00 分
場 所	港南区役所 5 階 特別会議室
出席者	<p>【座長】 田野井一雄議員</p> <p>【議員：4 名】 みわ智恵美議員、瀬之間康浩議員、 安西英俊議員、山田桂一郎議員</p> <p>【港南区：29 名】 齊藤貴子区長、佐藤英一副区長 山田洋福祉保健センター担当部長、 山浦善宏港南土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	平成 31 年度個性ある区づくり推進費について （塩田総務課長説明）
発言の 要 旨	<p>みわ議員：地域防災拠点の機能強化について、野庭中学校は丸山台中学校と統合されるが、野庭地域の地域防災拠点として野庭中学校は大きな役割を果たしてきた。学校が統合された後の考えはあるか。</p> <p>また、新年度の予算で防災スピーカーが、地域防災拠点や区役所、消防署など、全市で 40 数機設置される。どこに設置されるのか、バランスの問題があると思うが、局から聞いているか。</p> <p>塩田総務課長：野庭中学校地域防災拠点については、引き続き継続して利用できるよう、教育委員会等に働きかけていきます。</p> <p>また、防災スピーカーについては、予算化されたことは聞いておりますが、設置箇所についてはまだ情報はありません。</p> <p>みわ議員：災害時の地域の見守り推進事業について、各地域の取組を支援とあるが、具体的にはどう支援するのか。</p> <p>畑岸福祉保健課長：日頃からの見守り支えあいを各地域にお声掛けしており、災害時における援護を必要とする方への取組も各地域で進めたいと考えています。日頃の見守りの中で、一人暮らしの高齢者がいるとかを把握し、災害が発生したとき地域で協力してお声がけをする、といった取組をお願いしています。</p> <p>みわ議員：見守り支えあいは「こういうものですよ」と、啓発や中身を伝えることが、支援ということか。</p> <p>畑岸福祉保健課長：日頃の声掛けで、様子が変と気付いたらケアプラザや</p>

区役所に連絡して頂くなど、地域と行政と関係機関で、共に見守り支えていこうというものです。

みわ議員：交通安全対策のスクールゾーン対策について、前回も通学路の危険なブロック塀について聞いたが、進捗状況や取組はどうか。

野澤学校連携担当課長：地域で確認いただいたところは、学校に情報提供されていますが、個人宅は個人情報になるため、目的外利用にあたるため現在のところ区役所には情報提供ありません。

みわ議員：区役所にも情報提供があると良いと思う。

次に、肺がん検診について、働き・子育て世代の方にも検診が受けやすいように、インターネット受付や一時保育に取り組んだのは良かったと思う。これまでの取組の中での感想を。

畑岸福祉保健課長：これまで、がん検診のご案内は広報よこはまなどを通じて行ってきましたが、受診者の増加につながりませんでした。そこで、働き・子育て世代の方への伝え方や申込みのし易さを工夫し、QRコードで申込できるようにしたところ、申込が多くなりました。今後も、働き・子育て世代の方への伝え方を考えていきたいと思います。

みわ議員：高齢者元気応援事業について、介護予防チラシを作成して、特定検診受診券の約 35,000 通の発送時に同封する取組は、とても良いと思う。区独自予算となっているが、取組が良かったら市全体に広げていくのか、全体の取組の流れはどうか。

竹田高齢障害支援課長：この事業は、40 歳以上の特定検診の対象者に、介護予防をお伝えするため、健康福祉局と調整し、区独自のチラシを同封するものです。特定健診の通知にチラシを入れるのは各区の判断であり、また通知に直接記載を加えるなど、工夫の余地はあると局から聞いています。また、郵送料の関係で重いものは入れられないなど制約がありますが、その制約の中で港南区はやりたいたいということで手を挙げて行うものです。

みわ議員：他区でも実施できると思うので、ぜひ結果を報告して、市全体に取組が広がれば良いと思う。

山田議員：来年度予算に向けた区提案反映制度について、港南区の対応件数は 6 件で、旭区の 18 件や中区 12 件、戸塚区の 13 件と比べると控えめの対応件数となっている。他区では、川や道路など、区内の具体的な問題点を要望したものが対応件数になっているが、港

南区は、どの程度提案し対応件数が6件にとどまったのか。

林区政推進課長：区提案反映制度につきましては、各課と地区担当者が把握した地域の課題や、業務上の課題を洗い出し、現場の視点から解決策を検討したうえで、6件の提案をしました。区内には様々な課題がありますが、日頃から、区と局が課題について議論や調整を行っており、区提案反映制度を活用しなくても局が対応して課題を解決した事例もあり、随時、地域課題の解決に取り組んでいます。引き続き、地域課題をしっかり把握し、関係局と連携して対応していきます。

山田議員：特色ある提案に、期日前投票所の体制の充実があるが、具体的にはどのような要望か。

塩田総務課長：要望の内容は、期日前投票所の人員体制の充実を図れるよう、人材派遣の増強や、局職員の平日における応援を要望しました。29年10月の衆議院議員総選挙の期日前投票では、投票される方が多く、待ち時間が最大1時間を超えるなど、大変にご不便をおかけしました。急遽区役所の職員を追加で動員し、混雑に対応しましたが、これを受け、港南区選挙管理委員会で混雑緩和の方策として期日前投票所の体制の充実を検討しました。体制充実には、従事職員を増員する必要がありますが、これまで以上に区職員を動員するのは難しいため、局職員の応援や人材派遣の増強を要望したものです。

山田議員：総選挙では栄区の有権者を港南区で投票させてしまったという事案があったので、次期統一地方選挙は、くれぐれも平穏無事をお願いしたい。

次に、国民健康保険収納滞納整理業務について、28年度の滞納繰越分収納率は18区中17位と低迷したが、理由は何か。

鈴木保険年金課長：28年度までは生命保険や預金といった、1回で差押えが終了する債権を中心に滞納処分を行っており、給与や売掛金といった継続的な債権の処分件数は不足していました。そのため、滞納処分は行うものの完納までには至らず、特に高額滞納案件の整理が進まなかったことが主な原因と考えています。

山田議員：翌年の29年度には、滞納繰越分収納率が大幅に改善し、2位に飛躍したが、その理由は何か。

鈴木保険年金課長：29年度は、給与の差押えなど継続債権を中心に、高額

滞納案件を対象に整理を進めました。また、局と連携して、国民健康保険では本市初となる取立訴訟を行ない、約500万円の大口滞納者を整理できたなど、徹底した滞納処分を進めた結果と思います。また、仕事のやり方も標準化するなど、内部事務の効率化を図ったほか、職員間で取り立ての成功事例を共有しながら、職員のモチベーションを高めて、全体としてチーム力が大幅に向上した結果であると考えています。

山田議員：成功体験と事例共有で今後も良い成績を維持できると思うが、人事異動で職員は変わってしまう。どのように後任者に引き継ぐかが重要と考えるが、どうか。

鈴木保険年金課長：職員全員が個人別成績で上位におり、新人や2年目の職員もトップクラスにいます。人事異動があった場合も、引き続き丁寧な職員指導を行い、収納率の維持に努めていきます。

山田議員：今後も努力していただき、ぜひ1位を目指してもらいたい。

安西議員：地域防災拠点の機能強化について、災害時に通信制限がかかりにくい携帯電話を配備するということだが、区内の地域防災拠点すべてに配備するのか。

塩田総務課長：地域防災拠点との連絡用ということで、各地域防災拠点に配備します。考え方としては、地域防災拠点に区の職員が拠点担当として出向く際に、所持させることで配備します。また、区災害対策本部にも配備する予定です。

安西議員：無線の強化もしているが、すみ分けはどうするのか。

塩田総務課長：現在の地域防災拠点との連絡手段は、デジタル移動無線とアマチュア無線がありますが、デジタル移動無線は回線数が限られることから、複数の連絡手段を持つため、災害時優先携帯電話を導入するとしました。

安西議員：暑さ対策の備蓄も、地域防災拠点に整備するとあるが、どのようなものか。

塩田総務課長：暑さ対策として、ミストファンを考えています。扇風機のような形状で、水を霧状にして風で送り出し、涼しくするという機能を持ったもので、拠点に配備します。

安西議員：すべての地域防災拠点に配備するのか。

塩田総務課長：こちらは、まず小学校を中心に順次配備していく考えです。

安西議員：地域子どもの安全対策協議会の実施について、毎年度、危険個

所の改善要望が各協議会からあがっているが、今年度の要望に対する実施状況はどうか。

馬淵地域振興課長：区内 21 校の今年度の要望件数は 187 件で、117 件が対応済み、引き続き検討が 17 件、対応不可が 51 件、その他が 2 件となっています。

安西議員：対応が進められているものもあるが、地域を回ると、通学路の横断歩道が消えているなど、横浜市だけでは推進が難しいと感じることが多い。何かしら対応していかないと、事故が起きてからでは遅いので、役所も所管外の部分はあるが研究して、子どもの安全を図ってもらいたい。

次に、新規の取組とある災害時用のペットゲージについて、18 動物病院に配備とあるが、サイズや個数はどうか。

待永生活衛生課長：配備する対象は、市と協定を結んでいる動物救援病院で、獣医師会に入っている 18 すべての動物病院です。ケージのサイズは、中型犬が入るサイズを各病院に 3 個程度配備する予定で、獣医師会にも承諾をいただいています。

安西議員：災害時に飼い主が行方不明になった動物を救護する救護所が、市内に 5 か所あるが、南部地域には無い。この課題もあることを知っておいてもらいたい。

次に、歩行者サポート事業について、手すりの設置を進めるということだが、31 年度も申請を受付けてもらえるのか。

渡辺土木事務所副所長：31 年度の施工箇所は、昨年 10 月の連合町内会長連絡協議会で 12 月末まで公募したもので、その結果 17 件、約 350 m の施工延長となったものです。今後申請のあったものは、内容により検討したいと思います。

安西議員：情報を知ったことで申請できた場所もあるし、知らなかったというところもあり得るので、門戸は広げながら、地域のニーズとしてはあるという情報はしっかり持ってもらったうえで、検討することを要望する。

瀬之間議員：地域防災力の向上について、横浜市のデータ発表によると、食糧の備蓄をしていない家庭が約 4 割、転倒防止をしていない家庭が約 6 割ある。総務局は高齢者世帯向け等に、家具転倒防止器具の取付けを代行する予算案を示したが、区はこれをどのように啓発するか。

塩田総務課長：在宅避難を推進するため、現在、家具転倒防止の耐震パッドやトイレパックを配布して啓発しています。29年度の区民意識調査では、非常用トイレパックの準備が前回調査より10%上りましたので、今後も区としては、トイレパックや家具転倒防止など、災害時にも在宅避難できるよう日頃の備えを啓発していきます。

齊藤区長：これまでは、取付け代行の局予算が十分でなかったため、地域の見守り支えあいの中で、お互い様でお手伝いしてくださいとお声かけをしてきました。来年度の局予算の配付方法を聞きながら、どのような形で地域の皆様にお話するとよいか、身近に感じていただけるよう工夫してまいります。

瀬之間議員：エンディングノートの普及啓発について、映画「エンディングノート」上映会とあるが、上映会はどこで実施するのか。また、対象者は、どのような層か。

竹田高齢・障害支援課長：今のところ、7月にひまわりの郷で上映予定です。現役を引退された高齢者を対象に、老後を安心して暮らせるためにどのようなことが必要かエンディングノートにまとめましょうという趣旨で上映します。映画はノンフィクション・ドキュメンタリーで大変参考になりますので、幅広く声掛けしてまいります。

瀬之間議員：街のクリーンアップ事業について、上永谷周辺で清掃している方がいる一方で、パンの耳を大量にまき散らしている人がいる。横浜銀行の人達が清掃をしたそうだが、たくさんの鳩とカラスが歩道を占拠し、衛生面でも問題があり、子ども達も通れないなど、皆さん困っている。このような場合、餌をまき散らす人を取り締まることはできないのか。

馬淵地域振興課長：上永谷駅周辺については、鳩への餌やりやたばこのポイ捨てなど、様々な問題があります。そのため、昨年の後半から丸山台自治会、いちょう坂商店街、横浜銀行などをはじめ周辺の事業者と一緒に協議会を立ち上げ、来年度から定期的な清掃活動などを通じて啓発を行う準備を始めているところですので、状況を見ながら、どういったことができるか検討していきます。

瀬之間議員：餌を撒いているところを見つけた場合、罰則はないのか。

山浦土木事務所長：上永谷の駅前広場は、ご指摘の通り問題を抱えていますので、土木事務所でも「鳩に餌をやらないでください」という

お願い看板を設置しています。単純に餌をやる行為だけでは注意できませんが、大量に行うとごみを捨てる行為につながりますとか、餌を食べた鳩の糞害で困っている方がいます、という言い方で注意をしています。また、清掃活動では、土木事務所のパトロール清掃と、障害者就労施設にお願いした清掃、また交通局の清掃を調整し、現在は週5回清掃を行っています。来年度は更に1回増やす予定で、ごみを捨てにくいきれいな環境を維持していくことに努めてまいります。

田野井議員：個性ある区づくり推進費の総括として、他区にない港南区の特徴は何か。

齊藤区長：今まで取り組んできた中でも、歩行者サポート事業や道路のカラー舗装化など、地域からご要望はあっても予算が間に合わず、何か年かに分割していたものがあります。そういうものを、なるべく早く地域の方々にお返しできるよう予算を集中させました。地域の要望を受け止めて、対応できるような区づくりの予算になったと思っています。

田野井議員：カラー舗装については、悲惨な事故が2度と起きないように、区の人口動態に合わせて、目配り・気配り・心配りが必要と思う。

また、港南区には他区にないものがあり、刑務所や少年鑑別所、国際交流ラウンジがある。今年はアフリカ開発会議があり、私の母校の桜岡小学校では、アビジャンの学校と交流を図るなど、他区にないものがある。

区制50周年を迎えるが、区の花ひまわりと言っても、「ひまわりはどこに咲いているのか」といった意見もある。座間市では、冬のひまわりを作り、それをきっかけにケーキ屋さんや組むとか、ひまわりビールは作れないかなど、ひまわりが根付くような商店街の活性化に取り組んでいる。このような、座間市の取組について、どう思うか。

齊藤区長：ひまわりは、夏に咲く花だと思っていましたが、冬に咲くひまわりもあるとのこと。地域の方からも、夏も、そして秋にもひまわりを咲かせたいという話をいただいています。また、賀詞交換会のときも、ひまわりを模したクッキーを作ってくれた団体があります。このように、様々なところで、ひまわりの商品や、ひまわりに関わる取組をやってみたいというところがあれば、情報を

	<p>いただきながら、いろいろな協力関係を作って展開していきたい と思います。</p> <p>田野井議員：交通安全対策について、最近はお子さんを前後に乗せたモーター付きの自転車が大変なスピードで走っているのを見るので、保護者に対する指導もしなくてはならないと思う。</p> <p>また、がん検診の受診率について、条例を作っても50%もいかないが、港南区では、部位ごとの受診率をとらえているか。</p> <p>畑岸福祉保健課長：港南区の28年度のがん検診事業の受診率は、子宮がん25.4%、乳がん19.5%、大腸がん13.9%、肺がん9.5%、胃がん5.5%となっています。</p> <p>田野井議員：がん検診の受診率を上げる施策は、例えば、保護者が健康管理のため通っているスポーツ施設がたくさんあるので、そうしたスポーツ施設でがん検診をアピールすることも考えてもらいたい。</p> <p>また、港南区にはラポール上大岡ができるので、パラリンピックを契機に、健常者が障害者を理解して感動するような、スポーツを通じた若者づくり、元気づくりの推進を要望します。</p>
備 考	